

不二製油株式会社 2025～2027 年度中期経営計画説明会 主な質疑応答

・日時	2025 年 8 月 28 日（木） 15:30～16:30		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	大森 達司
	取締役 兼 上席執行役員	最高執行責任者 COO	田中 寛之
	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. チョコレート用油脂（CBE）の需要が高まっているが、大型投資を行わない理由は。

A. カカオ相場の変動によって、CBE の需要は影響を受ける。2027 年度にかけて、カカオ相場は 2023 年以前の水準には戻らないものの、2024 年のような高騰からは落ち着き、平準化するとみている。CBE の大型投資は行わないが、設備改善や不二製油グループ内での中間原料の供給体制強化によって、5～10%の数量増を計画しており、需要に対応できると考えている。

Q. 2027 年度の事業利益計画は 450 億円だが、ブラマーの利益見込みは。2024 年度、ブラマーでのカカオ特殊要因が▲305 億円あり、それを除く事業利益は、435 億円だった。ブラマーが一定の利益を出す計画であれば、その他の事業の伸びは限定的では。

A. 個社の利益計画は非開示だが、2027 年度にブラマーは一定の利益水準を見込んでいる。2024 年度には、植物性油脂事業および業務用チョコレート事業で、一過性の原料差益があった。これを除いた基礎収益ベースでは、2024 年度から 2027 年度にかけて利益を成長させ、CBE やコンパウンドチョコレートがその成長を牽引する計画。ただ、カカオ価格は平準化を見込んでいるため、CBE の収益については保守的にみている。

Q. 米国の関税政策が、ブラマーのカナダ・キャンベルフォード工場の新ライン増設に与える影響は。また、ここで生産予定の「付加価値型コンパウンド」とは。

A. 現時点では、一定の条件を満たしたカナダから米国への農産物輸出は追加関税の対象外であり、大きな影響は出ていない。キャンベルフォード工場では、低糖・砂糖不使用や高プロテインなどの付加価値型コンパウンドの製造を予定している。

Q. ブラマーは買収以降、厳しい状況が続いている。収益が想定どおり回復しなかった場合、追加的なリストラや撤退などの厳しい決断をする可能性は。

A. コロナ禍や原材料価格の高騰など、事業環境の変化により、ブラマーの収益性は買収以降低迷していた。構造改革を通じて、シカゴ工場の閉鎖を含む工場の生産性改善は進んでいる。また、2024 年度に大きな影響を与えたカカオ特殊要因に関しては、カカオ在庫の適正化や産地の多角化によってリスク低減を図るとともに、統一基幹システムの導入や日本からの人材追加派遣など、経営管理体制の強化にも取り組んでいる。カカオ相場的大幅な変動が収束すれば、計画達成は可能とみている。ただし、さらなる事業環境の変化が業績に影響を与える場合には、あらゆる選択肢を検討する。

以上